

1 新・神戸文化ホールについて

基本理念 輝ける神戸の未来に向けた「新たな価値を創り出す芸術創造拠点」

所在地：神戸市中央区雲井通5丁目1番1号

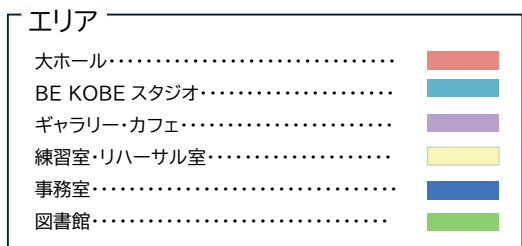
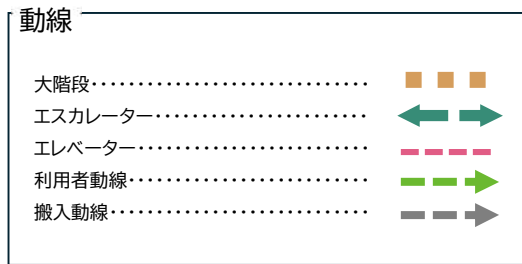
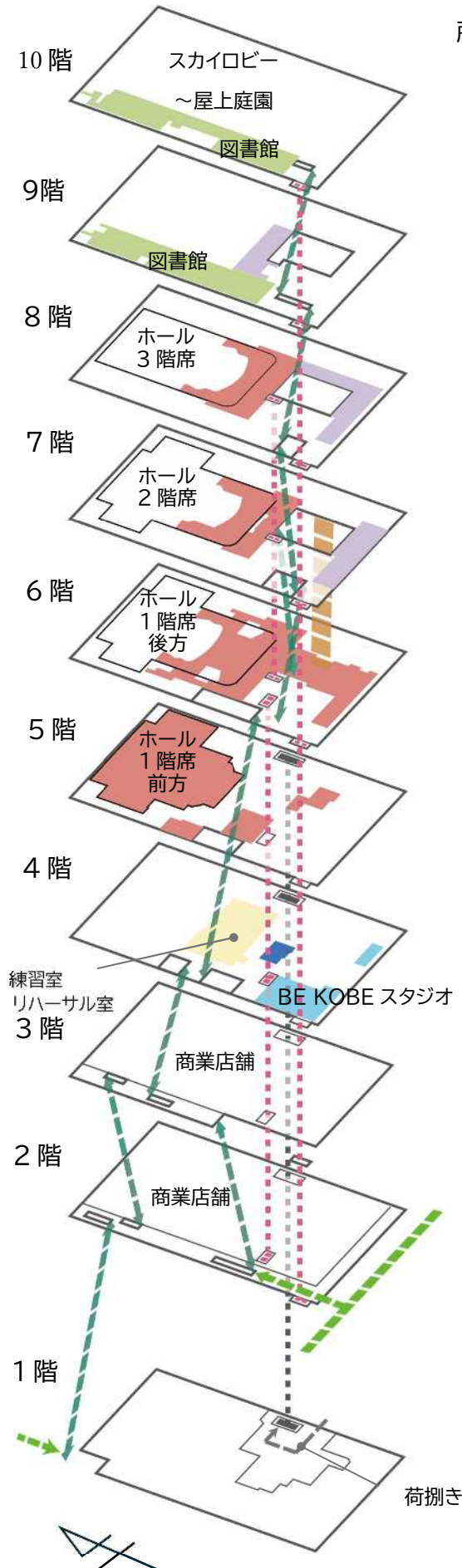
施設概要：

- 大ホール、BE KOBE スタジオ、
- 創造支援機能 [リハーサル室、練習室 (2室)]
- 交流機能 [ギャラリー、カフェなど]
- 管理機能 [事務室ほか]

※「神戸三宮雲井通5丁目地区第一種市街地再開発事業」における整備（商業施設、バスターミナル、図書館、ホテル、オフィス等との複合施設）

雲井通5・6丁目地区再整備
(I期：雲井通5丁目地区)

- ・大ホール：1,816席
- ・可動式の音響反射板やオーケストラピットを備え、音楽・演劇・舞踊などの舞台芸術など多彩な演目に対応

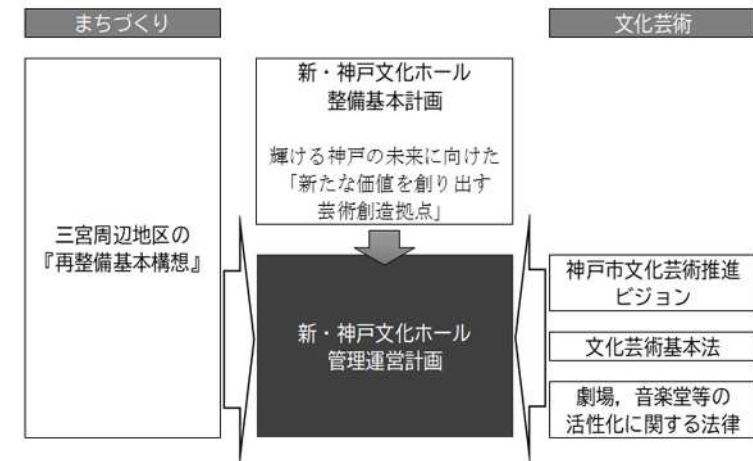


2 新・神戸文化ホール管理運営計画について

【管理運営方針】

- 開かれたホール
事業や活動を施設の中だけにとどめるのではなく、市民や神戸を訪れた多くの方に“開かれたホール”となる管理運営を目指します。神戸の象徴・三宮周辺地区において、にぎわいや活力を生み出し「まち」を楽しんでもらう仕掛けの一つとして、交流やにぎわいの創出を意識し、エリアマネジメントに積極的に関与します。
- 文化芸術の基幹ホール
各区のホール、民間のホール施設等市内の文化施設との役割分担や協働・連携することで、神戸の基幹ホールとして、市民の文化活動の促進も図るなど、文化芸術活動全体を意識した管理運営を行います。
- 長期的な視点をもった管理運営
文化芸術、まちづくり、ともに短期的に効果が表れるものではないため、継続性をもって計画的に管理運営を行っていく長期的な視点が求められます。神戸の文化芸術の創造と発展のために、施設や組織内にとどまらず、実演家、専門人材、市民、研究機関等と連携・協働した運営を目指します。また、施設の維持管理は、長期的に安定して安全に施設を利用してもらえるように、予防保全の考えで計画的に行うこととします。
- 神戸の文化芸術を支える・創る
発表の場として活用するだけでなく、専門性を持った助言・支援、高度な設備等への対応などを行い、市民の文化芸術活動を支える管理運営を行います。これからの新しい神戸の文化芸術を生み出していくため、市民の誇りとなるような、積極的かつ多様な事業展開を行います。

【管理運営計画の位置付け】



3 事業

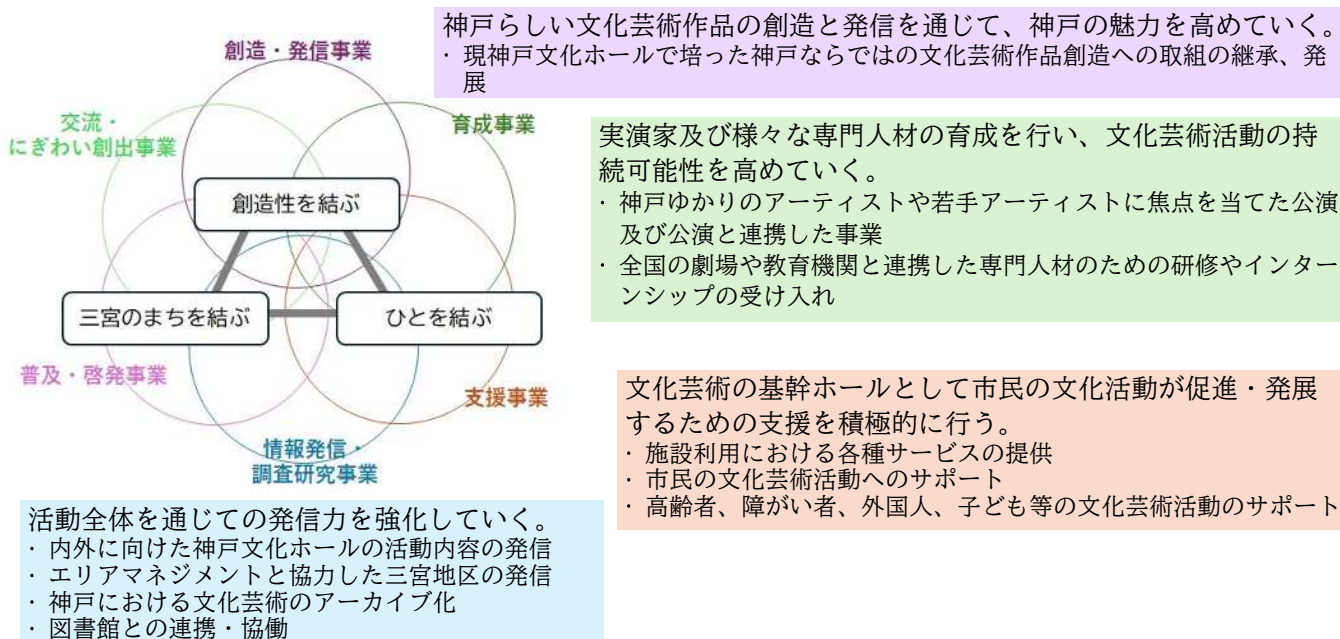
【事業方針】

- ① 創造性の結び目 創造性を結ぶ
これまで培ってきた神戸文化を継承しつつ、常に新しいものを創造し、伝統と歴史、発展から斬新まで神戸文化の魅力をひろげ、まちの求心力を高めます。市内はもとより、市外からも多くの人々が集い、「選ばれるまち」へとつながるように取り組んでいきます。
- ② ひとの結び目 ひとを結ぶ
様々なアーティストや作品・活動が集い、それを鑑賞するために、世代・性別・国籍・障がいの有無等に関わらず、あらゆる人々が集い（多文化共生）、交流が生まれ、新たな文化芸術の取り組みが起こる、という好循環に発展するように事業を展開し、ホールの管理運営にあたります。そして、より多くの人々が注目し集まるようなまちの魅力を創出します。
- ③ まちの結び目 神戸のまちを結ぶ
神戸の中心地・三宮へ移転し、市内各所から多くの人々や活動が集う求心力のある施設になるとともに、対外的にはグローバル都市の顔としての役割を果たし、市民やアーティスト、神戸を訪れた方など、様々な人が行き交う結節点となる機会や場をつくりだします。シンボリックな存在として神戸へ訪れてもらえるきっかけになるよう、近隣施設や地域とも連携し、三宮地区全体を盛り上げるとともに、ホールの外まで踏み出して、優れた文化芸術作品や神戸文化を発信していくことで、神戸全体が心豊かな文化芸術のまちとなるように取り組んでいきます。

【3つの方針と6つの事業】

日常的に人が集う仕掛け、外部空間を活用した事業展開、周辺地域との交流・連携事業等を展開する。
・芸術文化に関する国際コンクールや大規模大会の誘致や関連事業などの展開
・エリアマネジメントと連携した地域フェスティバル

文化芸術に親しみ楽しむ層を広げるための事業展開をめざす。
・子育て世代、在日外国人、高齢者、障がいのある方など市民誰もが芸術文化に触れることのできる機会を、参加・体験しやすい形態で提供する。
・学校や教育機関などと連携したアウトリーチ事業



神戸らしい文化芸術作品の創造と発信を通じて、神戸の魅力を高めていく。
・現神戸文化ホールで培った神戸ならではの文化芸術作品創造への取組の継承、発展

実演家及び様々な専門人材の育成を行い、文化芸術活動の持続可能性を高めていく。
・神戸ゆかりのアーティストや若手アーティストに焦点を当てた公演及び公演と連携した事業
・全国の劇場や教育機関と連携した専門人材のための研修やインターンシップの受け入れ

文化芸術の基幹ホールとして市民の文化活動が促進・発展するための支援を積極的に行う。
・施設利用における各種サービスの提供
・市民の文化芸術活動へのサポート
・高齢者、障がい者、外国人、子ども等の文化芸術活動のサポート

活動全体を通じての発信力を強化していく。
・内外に向けた神戸文化ホールの活動内容の発信
・エリアマネジメントと協力した三宮地区の発信
・神戸における文化芸術のアーカイブ化
・図書館との連携・協働

4 施設運営

(1) 利用規定

これまで現・神戸文化ホールを利用してきた方々にもスムーズに利用できるように配慮します。

- 休館日：年末年始（12月28日から翌1月3日まで）※定期的な休館日は設けず、保守点検等必要に応じ休館
- 開館時間：午前9時から午後10時まで ※施設利用の受付窓口：休館日を除く午前10時から午後6時まで
- 貸出区分：3区分[午前（午前9時～午後0時）、午後（午後1時～午後5時）、夜間（午後6時～午後10時）]
※練習室等はより柔軟に利用できるように時間単位での貸出を行います。
※事前の打ち合わせを十分に行い、必要と認められた場合には、早朝利用や午後10時以降の深夜利用なども対応

■利用申込時期（想定）

室名		申請開始時期
大ホール	通常利用	12月前
	全国大会、国際大会など大規模で準備に期間を要する利用	24月前
BE KOBE スタジオ	公演利用	12月前
	練習などでの利用	1月前
リハーサル室	・大ホールとの同時利用 ・公演利用	12月前 ※リハーサル室機能を担保するため、大ホールとの同時利用を優先させることを検討
	練習などでの単独利用	1月前
練習室		6月前

■利用申込方法：多くの利用希望者が利用できるように利用調整を図ることも検討し、今後申込方法を決定。

■連続利用：現施設（原則7日間まで連続して利用可能）の取り扱いを継続

■大ホール、BE KOBE スタジオにおける自主事業の年間利用割合（想定）：約20%

(2) 施設利用料の考え方

- 利用実態にあわせた料金設定：市民の利用も多いため、入場料ごとに設定された料金体系の見直しや、練習で利用する場合の割引等、より利用しやすい料金体系を設定。ただし、高額な入場料の場合は利用料を割増。
- 付属設備使用料の分かりやすい提示

5 運営体制

(1) 運営体制の基本方針

- ①施設運営や事業運営に関する専門性の確保 ②安定性や継続性の確保
- ③創造性・柔軟性の確保 ④公共性の確保 ⑤人材等の育成

(2) 運営主体

神戸の文化芸術の基幹ホールとしての役割を担う新・神戸文化ホールの運営主体は、5つの基本方針を満たす組織であることや、新ホールへスムーズに事業移行し運用をしていくために、移転後最初の指定管理期間については、公益財団法人神戸市民文化振興財団を指定管理者として、継続して随意選定することを検討します。

(3) 運営体制のモデル

3つの部門と、施設統括及びプロデューサーの配置を想定します。各部門には責任者を配置します。
※業務内容により、外部委託を行います。

総務部門	
管理部門	施設運営課[管理担当/貸出担当/受付業務] 舞台課
事業部門	ホール事業課

(4) 育成による継続性の確保

劇場、音楽堂等の管理運営に必要な専門性を確保するため、開館当初には外部からの登用が必要ですが、継続性をもって安定的な施設運営を行うために、職員の育成にも積極的に取り組んでいきます。

6 施設管理

複合施設内に整備するため、専有部分と建物全体における共有部分があります。専有部分の施設管理は管理運営を行う指定管理者が行います。共有部分は、今後設立される管理組合などが中心となって担い、市は施設設置者として面積案分等により経費負担していくこととなります。

【ホワイエ・ギャラリー・カフェ】

ホールの上階に図書館や屋上庭園が整備されることを踏まえ、市民はもちろん、神戸を訪れた方々も利用することができ、くつろぎや交流を生み出すエリアとします。ギャラリーやカフェの設置、図書館の連携により文化芸術の専門書や資料を閲覧できる空間を設ける等、ソフト的にも連携と融合を意識した取組みを行っていきます。

【連携】

- ①地域との連携：三宮地区のにぎわい創出や地域の活性化に向けて、エリアマネジメントと協力し、商業施設など地域との連携を推進します。

②市内文化施設との連携：近隣に位置するこくさいホール、各区の文化センター、新開地アートひろば、神戸新聞松方ホール、神戸朝日ホールなど多数の文化施設が整備されており、それぞれが充実した活動を行っています。神戸の文化芸術拠点として、より効果的に多くの市民に文化芸術を届けられるように市内の文化施設と連携します。施設の貸出においても、相互の情報を利用者に提供する等、利便性の向上にも寄与していきます。

③図書館との連携：上層階に整備される図書館は多くの市民が利用する施設です。その人の流れを取り込み、にぎわいをつくっていくことや、文化施設として相互に連動した企画などを検討します。

④他都市の劇場、音楽堂等との連携：全国の創造活動を実践している劇場、音楽堂等と、日頃から情報の共有を心がけ、それらの施設と連携や共同して事業の実施を効率よく行っていくことを検討します。

【BCP計画】

現・神戸文化ホールは災害等発生時の一時滞在施設となっており、新施設にも同様の機能を設け、災害等の発生時には必要な対応を行うこととします。

7 広報宣伝

以下の考えのもと、3つの広報宣伝活動を実践します。

- 市民をはじめ多くの方々に、新・神戸文化ホールの取組みを届ける
 - 神戸でどのような文化芸術が創られているのかを発信し、神戸のシティプロモーションにつなげる
 - 神戸から優れた文化芸術が発信されていることを誇りに思えること(シビックプライド)を醸成していく
- ① 事業広報
実施する事業の広報宣伝活動を行い、より多くの市民や利用者に情報を届け、文化芸術への興味や関心を持ってもらえるように実施します。事業の対象者に適切に届くような媒体を選定し展開します。
 - ② 施設広報
文化芸術活動に関心のある人だけでなく、複数階にまたがる広い空間など文化芸術にとどまらない利用などの情報を提供し、三宮地区への来訪を促す魅力ある施設であることをアピールしていきます。開館前の段階から展開することを検討します。
 - ③ エリアマネジメントにおける広報
「えきまち空間」におけるエリアマネジメントと協働して展開します。地域内の各施設にあるデジタルサイネージによる相互の情報提供やイベントの実施など、地域全体での取り組みに積極的に協力します。

8 収支計画

これまでの神戸文化ホールの運営や他施設の事例などからみると、公立文化施設の管理運営に係る支出を、施設が得ることのできる収入で賄うことは困難です。しかし、神戸市の都市政策において重要な役割を果たす新・神戸文化ホールの管理運営にかかる費用については、神戸、三宮地区の都市の魅力をうみだし、将来的な都市間競争において選ばれる都市となるための経費として捉え、必要な支出を市が負担します。

ただし、効率的な管理運営などにより支出の軽減を図るとともに、事業においては、国や公的機関からの助成金、企業・個人等からの寄付・協賛金など外部からの収入の確保も図ることで神戸市の負担軽減に向け取り組みます。

9 評価

指定管理者制度を導入する予定であり、指定管理者が適切な運営を行っているか、毎年度評価を行います。市の評価制度に加え、文化施設という特性を鑑みた評価を行うことを検討します。

また、指定管理期間が長期にわたる場合には、中間評価を行うことを検討し、中間評価により指定管理業務の継続等の判断の参考とすることを想定します。

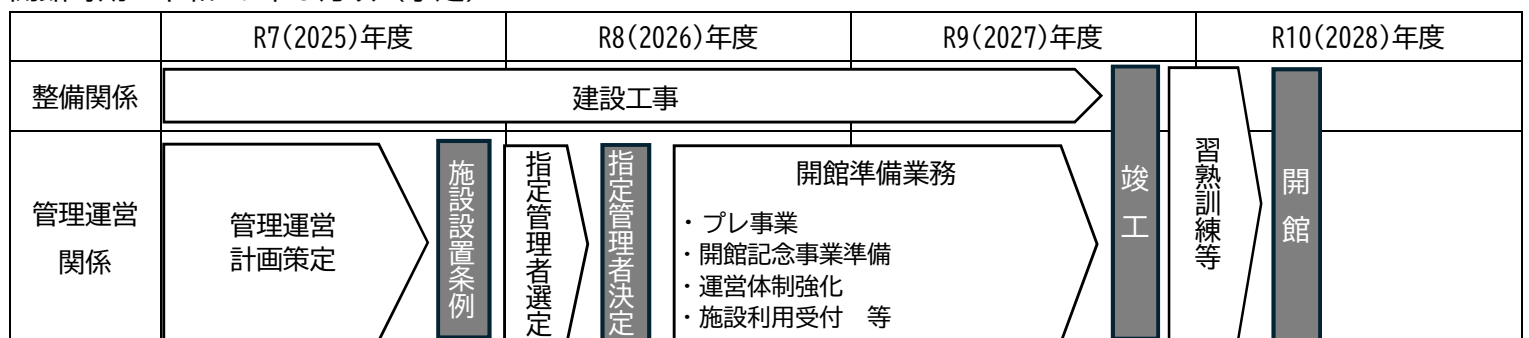
●評価の視点

- ① 芸術文化振興の視点
- ② 育成の視点
- ③ 地域振興の視点

●評価の実施体制：自己評価及び行政評価

10 今後のスケジュール等

開館時期：令和10年6月頃（予定）



輝ける神戸の未来に向けた「新たな価値を創り出す芸術創造拠点」 新・神戸文化ホール

大ホール

- プロセニウム形式を基本とした多目的ホール。可動式の音響反射板やオーケストラピットを備え、音楽・演劇・舞踊などの舞台芸術など多彩な演目に対応

総客数	1,816 席 (1階：1,101席、2階：431席、3階：284席)	
	上記とは別に車椅子席 10 席、多目的室 5 席程度	
舞台間口	プロセニウム形式時	幅 18~20M×高さ 9.0M
	音響反射板設置時	幅 20M×高さ 12.78M
楽屋	10 室(大 2、中 4、小 4) 楽屋ラウンジあり	



撮影：テス大阪

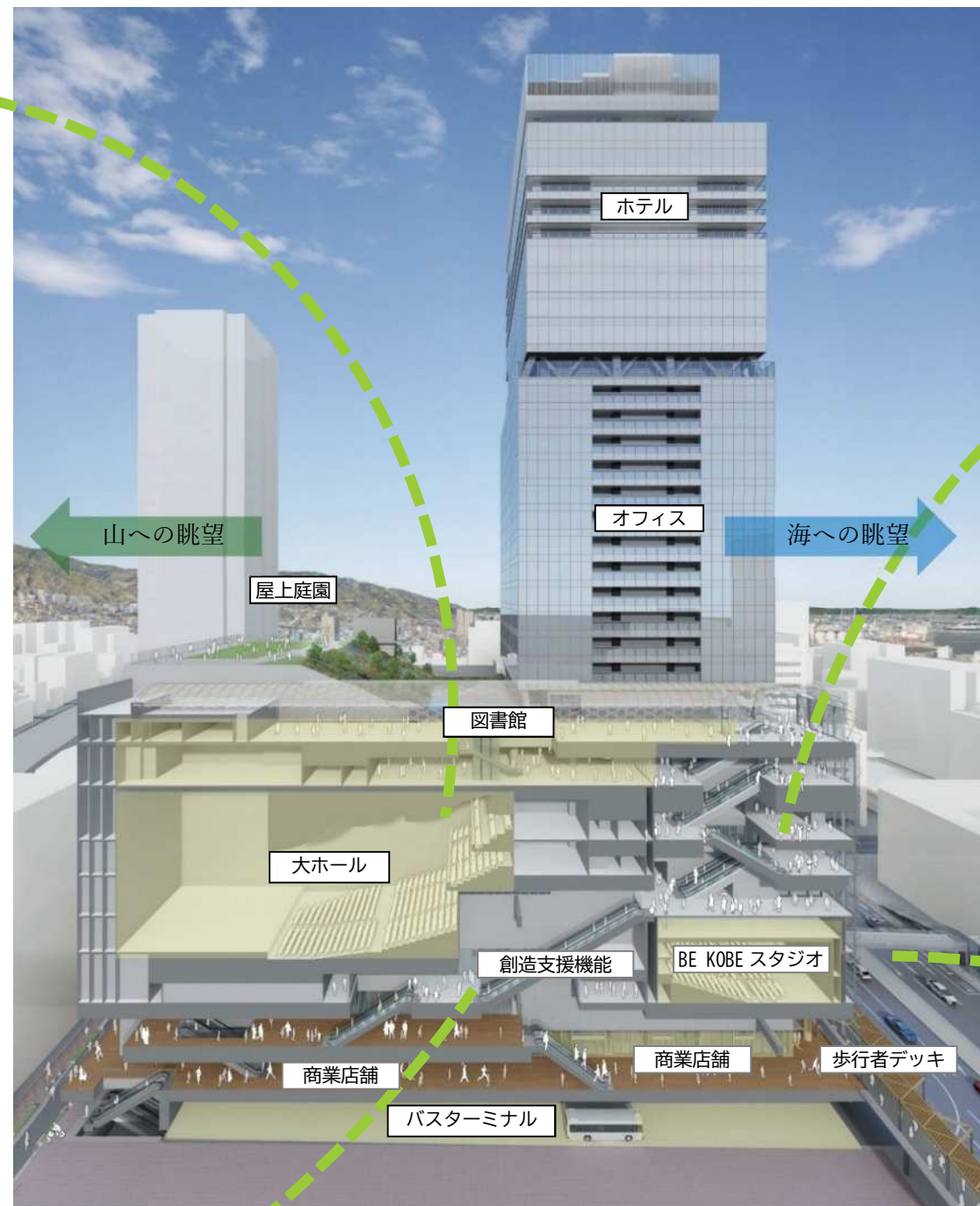
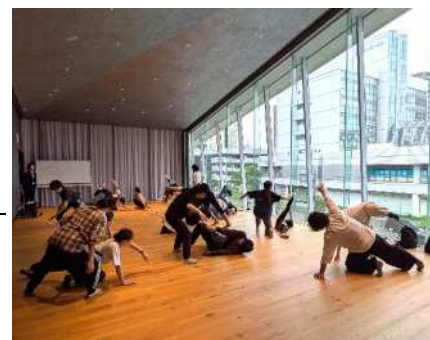
創造支援機能

リハーサル室
(290 m²程度)

- ホールでの公演・演奏会に向けたリハーサルや日常の練習や稽古
- 簡易な舞台設備を備え、100 席程度の小規模な公演や演奏会

練習室
(40 m²程度)

- 防音機能を備えた練習室(2 室)。



ギャラリー・カフェ

- 気持ちの良い吹き抜けの大空間
- だれもが訪れ、文化に触れることのできる空間
- くつろぎ、憩いの場としてのカフェ



BE KOBE スタジオ

- 多目的に使える移動型観覧席
- 舞台設備を備え、ダンス・演劇の公演、ピアノの発表会などに利用できる自由な空間

面積	375 m ² 程度	
定員数	移動型観覧席利用時	最大 280 席
	移動型観覧席収納時(平土間)	最大 370 人収容可



撮影：横山隆平